

平成 22 年 6 月 3 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18202002
 研究課題名（和文）グローバル化状況における国民的・間国民的「想起の文化」の総合的研究
 研究課題名（英文） Study of national and inter-national “Collective Memory” in the globalizing world
 研究代表者
 岩崎 稔（MINORU IWASAKI）
 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
 研究者番号：10201948

研究成果の概要（和文）：

国民国家内とそれを越える広域的空間として、南北アメリカ、アイルランド、ドイツ（旧東ドイツを含む）、オーストリア、フランス、イタリア、ベトナム、北朝鮮、韓国、中国、沖縄、日本を選択し、それらの「想起の文化」つまり過去の想起のあり方が、グローバル化・新自由主義の影響によって、大きく変容を遂げていることを、理論・方法論の構築ならびに事例解釈・思想史的分析を通じて明らかにした。それらの成果は世界各地の国際シンポジウム等で発表され、論文・著作として公刊された。

研究成果の概要（英文）：

In this study we chose areas such as the USA, Latin America, Ireland, Germany, ex-East Germany, Austria, France, Italy, Vietnam, North and South Korea, China, Okinawa and Japan from the national and inter-national viewpoint, and then theorized how their “Collective Memories” were transformed by globalizing and neo-liberalism. Its theory and case studies are read at the various international symposia and conferences, published in many articles of periodicals and books.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	9,800,000	2,940,000	12,740,000
2007 年度	7,200,000	2,160,000	9,360,000
2008 年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
2009 年度	8,300,000	2,490,000	10,790,000
年度			
総計	31,900,000	9,570,000	41,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史・社会思想史

キーワード：想起・記憶・戦争・文化・思想・追悼・新自由主義・民衆

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の活動の拠点となっている東京外国語大学海外事情研究所では 10 年以上にわたり、記憶や想起に関する科研を取得し、数多くの定評のある国際シンポジウムを開催し、そして研究成果の

公刊を多数行ってきた。

(2) 同研究所は本テーマに関する研究蓄積を有し、定評のある施設と整備、文献資料を備え、研究活動支援に習熟した研究補佐スタッフを擁する環境を持っていた。

こうした点から本研究計画を有利に実行する背景は十分整っていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は国民国家内部とそれを越える広域的空間において「想起の文化」が、グローバル化のダイナミクスのもとで、どのように機能しているかを明らかにすることである。その際、変容や構造転換に焦点をあて、そこに生じる諸相を具体化し、さらに一般理論化することを目指した。

3. 研究の方法

上記の目的を実現するために、以下のような方法を用いた。

(1) 課題群を整理し、思想史的研究と事例解釈との連関についての展望を獲得し、研究体制を整備する。

(2) その体制に基づき、南北アメリカや東南アジア、中東、ヨーロッパ、日本等の地域に研究分担者を派遣し、また現地の研究者とともに、あるいは日本にかれらを招請し、国際シンポジウムやワークショップを開催する。

(3) それらの成果に基づく総括を対外的に発表し、「想起の文化」論を構築する。

4. 研究成果

(1) 2006 年度は課題を整理し、四年間の研究を展望するため、ドイツ、オーストリア、アメリカ、北朝鮮、沖縄、日本における戦争・占領・移民・追悼・祭祀等のテーマや記憶・想起することの意味について検討し、そこから生まれる文化に関する多数の研究会やシンポジウムを開催した。

(2) 2007 年度は東アジア、東ドイツ、アイルランド、ベトナムにおける「想起の文化」をめぐる個別研究に着手した。特にベトナムにおける戦死者追悼に関して国際シンポジウムを開催し、記念碑と追悼の関係を検討した。また、理論的枠組みを整備するための研究会も開催し、そこから新自由主義が「想起の文化」にバイアスを与えているという結論に達し、理論・方法論において深化がみられた。さらに、東アジアにおける「想起の文化・記憶の場」に関する研究会合宿を開催し、韓国・中国・日本の研究者 11 名が活発に討議を行うことで、「東アジアにおける記憶の場」論を叙述する雛形を作った。

(3) 2008 年度は引き続き、東アジアにおける「想起の文化・記憶の場」論構築のための研究会合宿を韓国ソウルで開催し、日本から 5 名が参加し、活発な意見交換が行われた。また、これまでの理論・方法における成果を受け、世界各地における想起のあり方にグロ

ーバリゼーション・新自由主義が与えている影響を議論するシンポジウムを開催し、マイケル・ハートらを招聘し、議論を深めた。さらに、日本近現代史における「想起の文化」と過去の表象について、また、ヨーロッパと東アジアでの「記憶の場」論との比較検討を行うため、日本、ドイツ、フランス、イタリアの研究者を交え国際シンポジウムを開催した。

(4) 2009 年度は本科研最終年度に当たるため、「想起の文化」の理論化を目標に多様な研究会やシンポジウムを開催した。そこでは沖縄、日本の戦後補償、「9.11」の想起等が具体的に議論され、さらに日本近現代思想史という大きな枠組みにおける「想起の文化」「記憶の場」理論の構築が行われた。また社会主義圏における「想起の文化」具現化の一例として、エングラ著『東ドイツのひとびと-失われた国の地誌学』を翻訳・出版し、国際シンポジウムを開催した。残念ながらエングラ氏はインフルエンザのため来日は実現しなかったが、上記シンポジウムでは、かつて社会主義圏であった地域における想起のあり方がグローバル化によって大きく変容していたことが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 25 件)

①岩崎 稔「記憶と想起の概念に関する一試論」『ドイツ研究』、43 号、59-74 頁、2009、査読有

②小田原 琳「イタリア版『記憶の場所』の置かれた〈場所〉」『クアドランテ』、11 号、39-54 頁、2009、査読有

③篠原 琢「東欧諸国における第二次世界大戦の記憶」『学術の動向』、3 月号、88-93 頁、2009、査読無

④岩崎 稔「記憶から想起へ ドイツ語圏の作品から」『現代思想』、1 月臨時増刊号、212-228 頁、2008、査読無

⑤金井 光太郎「1812 年戦争による大陸群の記憶再編と国民国家神話の確立-レパブリカニズムの政治文化からナショナリズムへ-」『クアドランテ』、10 号、305-323 頁、2008、査読有

⑥今井 昭夫「ベトナム中部クアンナム・ダナン在住退役軍人の戦争の記憶」『東京外国語大学論集』、75 号、305-325 頁、2007、査読

無

〔学会発表〕(計1件)

①岩崎 稔、「記憶論的転回」以後の歴史認識をめぐる試論」日本ドイツ学会第24回総会、2008年6月21日、筑波大学

〔図書〕(計24件)

①金井 光太郎、彩流社、金井光太郎編『アメリカの愛国心とアイデンティティ-自由の国の記憶・ジェンダー・人種』、「フランクリンに見るイギリスの国民形成とアメリカのアイデンティティ」(17-40頁)を分担執筆、2009、257頁

②大川 正彦、青弓社、金富子・中野敏男編『歴史と責任-「慰安婦」問題と一九九〇年代』、「日本軍戦時性暴力被害」訴訟から見えてくること-裁判はどこまで「慰安婦」問題を裁けているか?」(65-81頁)を分担執筆、2008、422頁

③今井 昭夫、人間文化研究機構連携研究報告書、『ベトナムにおける国家と民族』、「ベトナムにおける民族概念とナショナリズム」(82-91頁)を分担執筆、2008、94頁

④篠原 琢、山川出版社、近藤和彦編『歴史的ヨーロッパの政治社会』、「祭典熱の時代-つくられたチェコ性によせて」(553-592頁)を分担執筆、2008、606頁

⑤岩崎 稔、沖縄タイムス社、『挑まれる沖縄戦-「集団自決」・教科書検定問題報道総集』、「自由主義史観派のねらい」(94-96頁)を分担執筆、2008、422頁

⑥岩崎 稔、東京大学出版会、田中宏・板垣竜太編『日韓新たな始まりのための20章』、「過去に向き合うことは『自虐史観』か」(137-143頁)を分担執筆、2007、xii、143頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

岩崎 稔 (IWASAKI MINORU)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：10201948

(2)研究分担者

八尾師 誠 (HACHIOSI MAKOTO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20172926

大川 正彦 (OKAWA MASAHICO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：80323731

今井 昭夫 (IMAI YOSHIO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20203284

工藤 光一 (KUDO KOICHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：80255950

金井 光太郎 (KANAI KOTARO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：40143523

小川 英文 (OGAWA HIDEFUMI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20214025

米谷 匡史 (YONETANI MASAFUMI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：80251312

篠原 琢 (SHINOHARA TAKU)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20251564

藤田 進 (FUJITA SUSUMU)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：30014525

(3)連携研究者

岩田 重則 (IWATA SHIGENORI)

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：20272619